

幼児の複合名詞の理解の発達機序

○藤木大介¹・若山育代²(非会員)・徳永智子³・関口道彦³(非会員)
 (¹梅光学院大学・²富山大学・³広島大学大学院教育学研究科)
 キーワード：言語発達, 概念結合, 複合名詞



FUJIKI's Web Site

Developmental mechanisms of the complex noun comprehension

Daisuke FUJIKI¹, Ikuyo WAKAYAMA^{2*}, Satoko TOKUNAGA³, and Michihiko SEKIGUCHI^{3#}
 (¹Baiko Gakuin University, ²University of Toyama, ³Graduate School of Education, Hiroshima University)
 Key words: language development, conceptual combination, complex noun

句や文を理解するためには語彙に関する知識だけでなく、語同士を結びつける方法に関する知識も持っていないなければならない。例えば、名詞句「赤いホッチキス」を理解するためには形容詞が名詞を修飾するという文法的な関係を決定し、「赤い」という語彙の概念スキーマを「ホッチキス」の概念スキーマへ統合する処理が必要である (Murphy, 1990)。

名詞句の理解の発達について検討するため、藤木・関口・加島・高橋・倉田・山崎(審査中)は、幼児に[赤いホッチキス][青いホッチキス][赤いハサミ][青いハサミ]といった組の絵を提示し、「赤いホッチキス」を選択するよう求めた。そしてその誤答を分析し、発達初期では[青いホッチキス]が多く選択されることを明らかにした。つまり、名詞「ホッチキス」のみに基づく理解が行われたといえる。これについて藤木ら(審査中)は、発達初期には名詞のみに注意が奪われる時期があり、名詞がスキーマを統合する側の語であると認識できるようになることで名詞句の理解が可能になるとした。

このように名詞のみに着目する時期があるのであれば、「サメホッチキス」のように名詞と名詞とからなる名詞句(複合名詞)の発達過程はどのようなものとなるのだろうか。Clark, Gelman, & Lane (1985)は[サメホッチキス][サメ][ホッチキス][花]といった組の絵を提示し「サメホッチキス」を選択するよう求めた。その結果、発達初期には[サメ]を選択する誤答が多いことが分かった。また、Nicoladis (2003)は、[サメホッチキス][サメとホッチキス][サメ][ホッチキス]といった絵の組を提示し、「サメホッチキス」を選択するよう求めた。その結果、発達初期には[サメとホッチキス]の絵を選択する誤答が多いことが分かった。この2つの研究から、複合名詞の理解の発達の過程では、名詞に注意を奪われ句の初頭の名詞を即時利用する時期や、2つの名詞に注意を向けることはできるが語順によって決定される修飾関係を考慮できない時期があると考えられる。

そこで本研究では、これらの時期を経て幼児がどのようにして複合名詞を理解できるようになるか検討する。そのために、幼児に図1の(a: サメホッチキス)と(b)~(g)を対で提示し、「サメホッチキス」を選択するよう求める。(a)-(b)

表1 実験で呈示した対、および課題に正答するために必要な能力

(a)-(b: ホッチキスサメ)	…語順から修飾語と被修飾語の関係を把握する能力
(a)-(c: ワニホッチキス)	…修飾語を同定する処理に基づいた理解の能力
(a)-(d: ホッチキス)	…修飾語の付加を同定する処理に基づいた理解の能力
(a)-(e: サメ)	…修飾語が対象の属性の指示に関わることを把握できる能力
(a)-(f: ホッチキスワニ)	…被修飾語が対象の指示に関わることを把握できる能力
(a)-(g: はさみワニ)	…修飾語か被修飾語かのいずれかの単語を理解する能力

~(a)-(g)の各対で正しく[サメホッチキス]を選択できることはそれぞれ表1のような能力があることを示していると考えられる。そして、この各対の正答率を元にパス解析を行い、どの能力がどの能力の獲得の前提となっているか推定する。

方法

刺激 図1の(a)~(g)の様な絵を合計360枚作成した。

手続き 表1のような対の絵を6対ずつ、計36対ランダムに呈示し、「サメホッチキスはどっち?」と尋ねた。

対象児 保育所に通う幼児144名であった。内訳は、年少児46名(平均月齢48.87)、年中児49名(平均月齢60.49)、年長児49名(平均月齢72.78)であった。

結果と考察

共分散構造分析によるパス解析を行った(図1)。なお、図中 [a-b] 等の配置は左に行くほど全体の正答率が高く容易であったことを示しており、容易な対に回答できることがより困難な対に回答できる前提であると仮定した。図1から、複合名詞「サメホッチキス」には修飾語が付いていること(a-d)や、「サメ」「ホッチキス」という語が含まれていること(a-g)を認識できるようになると、「サメホッチキス」の属性がサメであること(a-c)や、指示対象がホッチキスであること(a-e)が分かるようになると言える。また、「サメホッチキス」の属性がサメであることが認識できるようになる(a-d, a-c)と、「ホッチキス」が属性指示語ではないと分かるようになる(a-f)と言える。さらに、「サメホッチキス」の属性がサメであることが特定できるようになる(a-c)と、語順により「サメ」が属性を指示し、「ホッチキス」が対象を指示することが分かるようになる(a-b)と言える。

引用文献

Clark, E. V., Gelman, S. A., & Lane, N. M. (1985). Compound nouns and category structure in young children. *Child Development*, *56*, 84-94.
 藤木大介・関口道彦・加島志保・高橋佳子・倉田久美子・山崎 晃 (審査中). 形容詞と名詞とからなる句の理解の発達過程
 Murphy, G. L. (1990). Noun phrase interpretation and conceptual combination. *Journal of Memory and Language*, *29*, 259-288.
 Nicoladis, E. (2003). What compound nouns mean to preschool children. *Brain and Language*, *84*, 38-49.

